

御所南だより

10月特別号

特集

前期学校評価

平成25年10月9日
京都市立御所南小学校
校長 竹内 知史

本校では学校教育目標の実現を目指し、学校評価としてアンケートを行っています。初回は6月に保護者の皆様にご協力いただき、御所南だより《夏休み号》で結果をお知らせしました。今回は児童と教職員対象に7月に実施したアンケートの結果をお知らせします。児童の結果は、低学年（1・2年）と中高学年（3～6年）別にA+B（そう思う+大体そう思う）とC+D（あまりそう思わない+そう思わない）にまとめて集計しています。なお、それぞれの母数は低学年が407名、中高学年が784名となっています。

学校教育目標
確かな学力・豊かな人間性・健やかな体
未来に夢が広がる地域の学校
かがやく御所南の子ども

児童		A そう思う	B 大体そう思う	C あまりそう思わない	D そう思わない	(%)	<1・2年生>		<3～6年生>	
		評価内容					A+B	C+D	A+B	C+D
1	学習	学習のめあてが分かり、学習課題を立てることができる。					94	6	85	15
2		司会をして学習を進めることができる。					91	9	82	18
3		相手の考えや意見を聞き、質問したり意見を述べたりすることができる。					82	18	77	23
4		目的に合わせて、自分のおもいや考えを書きまとめることができる。					93	7	87	13
5		先生は、分かりやすく最後まで教えてくれる。					92	8	93	7
6		先生は、提出したノート等に○をしたり、間違いを直したり、コメントを書いたりするなど、ていねいに教えてくれる。					96	4	94	6
7	生活	生活科 総合コミュニティ（かがやき）の学習は好きだと思っている。					94	6	88	12
8		学校を好きだと思っている。					90	10	88	12
9		「ごしょみなみ」のやくそくを守っている。					95	5	86	14
10		自分に自信があり、自分を好きだと思っている。					82	18	81	19
11		学校の先生は自分のことをよく知っている。					76	24	89	11
12		自分は家族や先生、友だちに大切にされている。					93	7	93	7

教職員		A よく出来ている	B 大体出来ている	C あまり出来ていない	D 出来ていない	(%)
		評価内容				
1	学習	学習のめあてが分かるように指導している。				384130
2		子どもが司会をして、学習を進めることができるように指導している。				250462
3		相手の考えや意見を聞き、質問したり意見を述べたりしてグループで話し合うことができるように指導している。				369280
4		学習過程を大切に、思考表現力を高めるような授業を進めている。				364330
5		分からないところは分かりやすく最後まで教えている。				569260
6		子どもたちのノートや作品、ワークシート等には、○をつけたりコメントを入れたりするなど、ていねいに見ている。				864280
7		生活科や総合コミュニティ（かがやき）の学習で、学習素材のよさを生かして、子どもが意欲的に学習できるように指導を工夫している。				108550
8	生活	子どもたちが楽しく学校に来ることができるように工夫している。				98470
9		「ごしょみなみ」のやくそくが守れるように指導している。				1269190
10		自分に対する肯定感をもつなど、自尊感情を育てる指導をしている。				977140
11		子どもの様子をよく見たり、話しかけたりして子どもを理解する努力をしている。				217720
12		子どものことについて連絡を密にするなど、保護者と連携して指導するようにしている。				965260
13		交通安全や防災、防犯などの安全指導に取り組んでいる。				147952

生活科・総合の学習について

その理由を記述してもらいました。

学校運営協議会（理事会）で、安全についての項目を評価したらどうかというご意見をいただいていた。今回は教職員だけに行いましたが、次回には、児童や保護者の項目の中にも入れていきたいと考えています。

生活科：低学年「体験が楽しい」「伝い合いや発表が好き」「したことが 振り返りでとても心に残っているから自分でびっくりできる」「友達に励まされる」「活動することが疲れる」「リーフレットを書くのが難しい」総合的な学習：中学年「ほかの学校ではできないことができる」「自分の町のよいところがある」「いろいろな意見を聞ける 比べられる」「答えが決まっていないから発表がたかさんできる 考えが広まっていける」「グループの意見をまとめることが難しい」総合的な学習：高学年「自分たちで調べられ、自分たちで学習を進め、解決できる」「他のクラスの人と体験できるので、友達ができる」「一つの学習（単元）が長い」「感想を言うことや交流が難しい」・・・児童があげた「好きな理由や好きでない理由」を指導に生かしていきたいと思います。

児童

例年と同様、自分自身を見つめることができはじめる時期である中高学年の方が、ほぼどの項目でも厳しい見方をしているのが分かります。しかし、昨年度と比べて項目1～4については3～6年生もA+Bが2～8%増えています。「学習課題を立てて司会して学習を進める」や「目的に合わせて記述すること」など、読解力を基盤にした本校の取組が、児童の自信にもつながってきていると考えます。教員の指導に関する5,6の項目では、A+Bがいずれも90%を越えていることは、指導者としては嬉しい結果です。

生活面では、「自尊感情」をもちにくい児童（項目10）が低学年で18%（実数73人）、中高学年で19%（実数148人）で、昨年度より低学年の割合が増えています。今後も低学年の間から、一人ひとりのよさや可能性を見極めて、自信をもって学習していけるように働きかけていきたいと思います。

教職員

児童が比較的高い評価をしてきている指導の項目についても、教職員はまだ努力が必要だと厳しい目で振り返りをしている傾向がみられます。これからも、自信をもってAがつけられるように、指導力向上を目指してお互いに研鑽を深めていきたいと考えています。

それに対して、項目11に着目すると、教職員はA+Bが98%を超えていますが、児童の方はそれを下回っています。（低76%・中高89%）「自分は大切にされている」と思いつつ（項目12）、「自分のことをよく知ってもらっていない」と感じている児童が割合としては多いということを示しています。今後も、児童理解に努め、自尊感情にもつなげられるようとしていきたいと考えます。

課題の克服に向けて

「自尊感情」に関しては、昨年度に引き続きこのアンケートに先立って行った「いじめに関するアンケート」の結果も参考に、担任と児童が個別に話をする機会をすでもっています。児童理解については、保護者の協力も得て、共に子どもを育てるという視点で歩調を合わせて指導していきたいと考えています。前期終了時の個人懇談会の場でも学校と家庭の協力の在り方について考えていきたいと思っています。

心の問題に関しては、今年もスクールカウンセラーとも連携して、解決の道を探っていききたいと思います。なお、スクールカウンセラーは、ほぼ毎週水曜日の12:30から16:30まで小学校で勤務しています。